

平成27年度 英語力調査結果（高校3年生）の速報（概要）

1 調査の目的

- 高校3年生を対象に、英語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈参考〉

「第2期教育振興基本計画」（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、中学3年生、高校3年生の英語力の目標を設定。

* 「第2期教育振興基本計画」（平成25年～29年度）における成果指標

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標

（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

2 調査の内容・対象

- 全国の高校3年生約9万人（国公立約500校）の英語力を調査
 - ・学習指導要領に基づき、全員を対象に3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）試験を実施。
 - ・「話すこと」は約2.2万人を調査（1校あたり1クラスを対象）。
- 生徒の英語学習状況や英語担当教員の指導状況を把握・分析(質問紙調査)
 - ・受験した生徒：英語学習に関する関心・意欲や授業内外における学習状況 など
 - ・調査実施対象校の英語担当教員：授業における指導や評価の状況 など
- 学校の取組事例
 - ・調査結果において特徴が見られた学校における取組内容の調査
- 調査実施時期：平成27年6月末～7月
※平成27年11月に生徒個人票返却、平成28年3月末を目途に結果をとりまとめ、公表

3 調査の特徴

- 国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験のフィージビリティ調査。
- 昨年度（平成26年度）と今年度の調査結果を経年比較
- 世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1からB2までのレベルを測定できるように設計。（別紙参照）

4 テスト結果と質問紙の分析 (要約)

※以下の結果・分析は全て公立学校のデータを対象としている。

1. 総論 (平成26・27年度の経年比較)

改善が見られるものの依然として「書く」「話す」に課題がある

- ・全ての技能において、依然として課題がある。CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) **A1レベルの人数が減少** (「読むこと」**75.3%→68.0%**) するとともに**A2レベル以上が増加** (「読むこと」**24.7%→32.0%**) し、昨年度に比べて英語力の向上がみられる。
- ・「書くこと」の得点者は全体の約80% (**無解答の割合が減: 30.4%→18.1%**) と10%以上増加し、改善がみられる。「話すこと」では平均点は上昇したが、依然として課題が大きい。

2. 英語学習に対する生徒の意識

学習意欲に課題

- 「英語の学習は好きですか。」 P.6,7参照
 - ・「英語の学習が好きだ」と回答した生徒は**44.5%** (対前年比**2.9ポイント増加**)。
 - ・昨年度より改善したが、「英語の学習が好きではない」と回答した生徒は依然として半数を超えている。
 - ・「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、また、「読むこと」の**テストスコアが高いほど**、「英語の学習が好きだ」と回答した**生徒の割合が高い**。
- 「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。」
 - ・「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」という回答が、**昨年度より増加** (①: 2.3ポイント増加、②: 1.4ポイント増加)。
 - ・昨年度と同様、**テストスコアが高いほど**、「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい」といった**将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い**。

〈2. の改善の方向性〉

- ⇒ 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲・態度の育成を含めた**具体的な教育目標 (指標形式の目標を含む)**を設定し、生徒の学ぶ意欲の向上を図るようにする。
併せて、**主体的・協働的な学びにつながる学習・指導方法 (アクティブ・ラーニングの視点を含む)**、及び**評価方法の在り方を検討・改善**。

3. 生徒の4技能の言語活動に対する意識

特に、話したり書いたりする言語活動が十分でない

- ◆話すこと◆ P.8,9,10,14,15参照
 - 「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。」
 - ・英語でスピーチやプレゼンテーションをしていた生徒は**30.7%**と少ないが、**改善はみられる (7.8ポイント増加)**。
 - ・「話すこと」、「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、スピーチやプレゼンテーションを経験した**生徒の割合が高い**。
 - 「英語でディベートやディスカッションをしていたと思いますか。」
 - ・英語でディベートやディスカッションをしていた生徒は**23.6%**と少ないが、**改善はみられる (6.3ポイント増加)**。
 - ・「話すこと」、「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、ディベートやディスカッションを経験した**生徒の割合が高い**。
 - 「与えられた課題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたと思いますか。」 (平成27年度新設項目)
 - ・与えられた課題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていた生徒は**30.4%**と少ないが、**改善はみられる**。
 - ・「話すこと」、「読むこと」の**テストスコアが高いほど**、即興で話す活動を経験した**生徒の割合が高い**。

◆聞くこと・読むこと◆

- 「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。」
- ・英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた生徒は**57.6 %と半数を上回る**。
- ・「聞くこと」・「読むこと」とともに、**A2レベル以上では、60%を超える**。

◆聞くこと◆

- 「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。」
- ・英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は**59.5%（1.3ポイント増加）**。
- ・「聞くこと」の**テストスコアが高いほど、「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。

◆読むこと◆

- 「英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。」
- ・英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた生徒は**67.6%**（前年度同様）。
- ・「読むこと」の**テストスコアが高いほど、「英語を読んで、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。
- 「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていたと思いますか。」
- ・速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた生徒（選択肢①②合計）は**54.7%と半数を上回る**。**特にB1レベル以上では、70%を超える**。

◆技能統合型の活動◆

- 「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。」
- ・聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた生徒は**41.8 %（6.6ポイント増加）**。
- ・「読むこと」の**テストスコアが高いほど、「英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。
- 「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。」
- ・聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた生徒（選択肢①②合計）は**42.5%（3.8ポイント増加）**。
- ・「書くこと」の**テストスコアが高いほど、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」と回答した生徒の割合が高い**。

〈3. の改善の方向性〉

- ⇒ 基礎的な知識・技術を活用し、生徒の興味・関心が高い話題や、時事問題や社会的な話題など幅広い話題について「**発表、討論・議論、交渉**」などの言語活動を豊富に体験させ、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする**総合的なコミュニケーション能力を高める必要がある**。
- ⇒ あわせて「聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする」など複数の技能を統合した言語活動を通して、**自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習・指導方法（アクティブ・ラーニングの視点を含む）や評価を行うことが必要**。

4. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識

改善は見られるが、依然として技能統合型の言語活動の指導が十分でない

P.16,17参照

○「スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。」

○「ディベートやディスカッションを行っていますか。」

- ・スピーチやプレゼンテーションを行っている教員は**34.8% (6.8ポイント増加)**。
- ・ディベートやディスカッションを行っている教員は平成26年度より**3.7ポイント増加**したものの、依然として**10.6%と非常に少ない**。

○「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。」

○「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。」

- ・聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換の活動を行っている教員は**39.7%**、書く活動を行っている教員は**46.7%**。
- いずれの活動も平成26年度より増加（意見交換：**6.7ポイント増加**、書く活動：**7ポイント増加**）している。

〈4. の改善の方向性〉

⇒ 教員養成・研修において、2. 3の改善の方向性に沿った実践的な内容の改善が必要。

ペア・ワーク、グループ・ワークなどを含めた学習・指導方法、時事問題や社会的な話題などについて「発表、討論・議論、交渉」などを行う模擬授業、「話す」「書く」の能力を適切に測るパフォーマンステスト等の改善を図ることが必要。

生徒全体の英語力の傾向

- 依然として4技能全てにおいて課題がある。前年度同様に、特に「話すこと」「書くこと」について課題が大きい。
- 一方で、4技能いずれにおいても、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A1レベルの人数の割合が減少し、A2レベル以上が増加するなど改善がみられる。（A2以上の増加率：読むこと：7.3ポイント、聞くこと：4.9ポイント、書くこと：6.9ポイント、話すこと：0.5ポイント）
- また「書くこと」の無回答の割合が減り（約30%→18%）、得点者は10%以上増加（約70%→80%）

【生徒全体のスコア分布(公立)】

＜読むこと＞43問（約45分）

＜聞くこと＞36問（約23分）

Reading		平成26年度			平成27年度			Listening		平成26年度			平成27年度		
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
B2	320	14	0.0%	30	0.1%	B2	320	55	0.1%	123	0.2%	310	14		
	310	3		35		56									
	300	7		41		62									
B1	290	11	1.2%	51	2.0%	B1	290	29	1.2%	77	2.1%	280	34		
	270	36		73		90									
	260	47		122		176									
	250	82		175		238									
	240	108		250		342									
	230	188		347		414									
	220	272		503		607									
	210	404		730		751									
	200	556		1007		1046									
A2	190	854	23.5%	1365	29.9%	A2	190	835	20.3%	1377	24.2%	180	1043		
	180	1204		1957		1770									
	170	1707		2580		2241									
	160	2367		3648		2835									
	150	3324		5063		3683									
	140	5031		7144		4700									
	130	7989		9963		6111									
	120	11631		12931		7728									
A1	110	12303	75.3%	12821	68.0%	A1	110	8713	78.4%	9268	73.6%	100	6935		
	100	9740		9486		9325									
	90	4663		4891		8611									
	80	1813		2038		6794									
	70	598		696		4289									
	60	206		240		2594									
	50	75		105		1299									
	40	50		35		642									
	30	18		35		331									
	20	1		1		144									
	10	0		0		147									
	0	282		332		529									
	平均	126.7				131.9		平均		117.1			120.7		
調査対象	65,711		78,569		調査対象	65,711		78,569							

＜書くこと＞2問（約27分）

＜話すこと＞3問（対面約10分）

Writing		平成26年度			平成27年度			Speaking		平成26年度			平成27年度		
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	CEFR	得点	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
B2	140	0	0.0%	0	0.0%	B1	14	166	1.0%	211	1.2%	135	0		
	135	0		1		239									
	130	0		0		390									
B1	125	2	0.3%	2	0.7%	A2	12	330	9.5%	422	9.8%	120	6		
	120	6		18		611									
	115	10		46		748									
	110	59		179		905									
A2	105	101	10.7%	288	17.2%	A1	10	559	89.5%	1026	89.0%	105	101		
	100	306		679		1168									
	95	420		726		1569									
	90	829		1,370		1028									
	85	737		1,577		1601									
	80	1,465		2,130		0									
	75	1,525		3,515		3918									
	70	1,752		3,563		3,149									
A1	65	1,668	89.1%	4,518	82.1%	0	2210	14.0%	3,149	18.5%	60	2,169			
	60	2,169		3,709		16,985									
	55	1,876		4,130		16,985									
	50	2,400		3,651		16,985									
	45	2,039		2,435		16,985									
	40	2,346		3,208		16,985									
	35	1,940		2,234		16,985									
	30	2,441		2,668		16,985									
	25	2,045		2,861		16,985									
	20	2,226		3,551		16,985									
	15	2,151		4,621		16,985									
	10	2,529		12,844		16,985									
	5	2,889		0		16,985									
0	29,973	14,303	16,985												
平均	24.9		37.5		平均	4.2		4.3							
調査対象	65,904		78,827		調査対象	15,832		16,985							
0点	20,059	30.4%	14,303	18.1%	0点	2,210	14.0%	3,149	18.5%						

※平成27年度のスコアは、平成26年度と共通の尺度にするため「等化」を行っている。（等化とは、同一の仕様に基づいて開発される問題項目の内容が異なる複数のテスト間で、どのテストを受験しても結果が同じ尺度上の得点で表現され、異なるテストの受験者間で得点を比較することを可能にする統計処理を指す）

なお、「書くこと」「話すこと」において、人数が表れていない得点帯があるが、これらは等化の結果、得点が小数点以下を含んだ状態で算出され、度数分布を作成した際に出現しない得点帯があるためである。

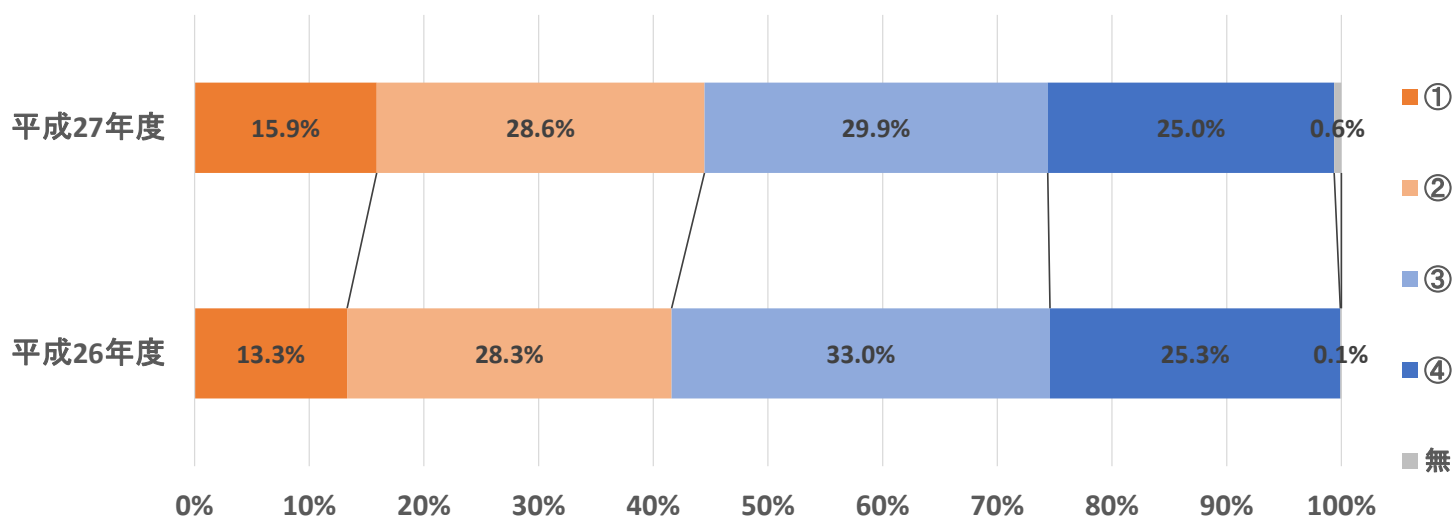
1. 英語学習に対する生徒の意識 ①

生徒の英語学習に対する意識

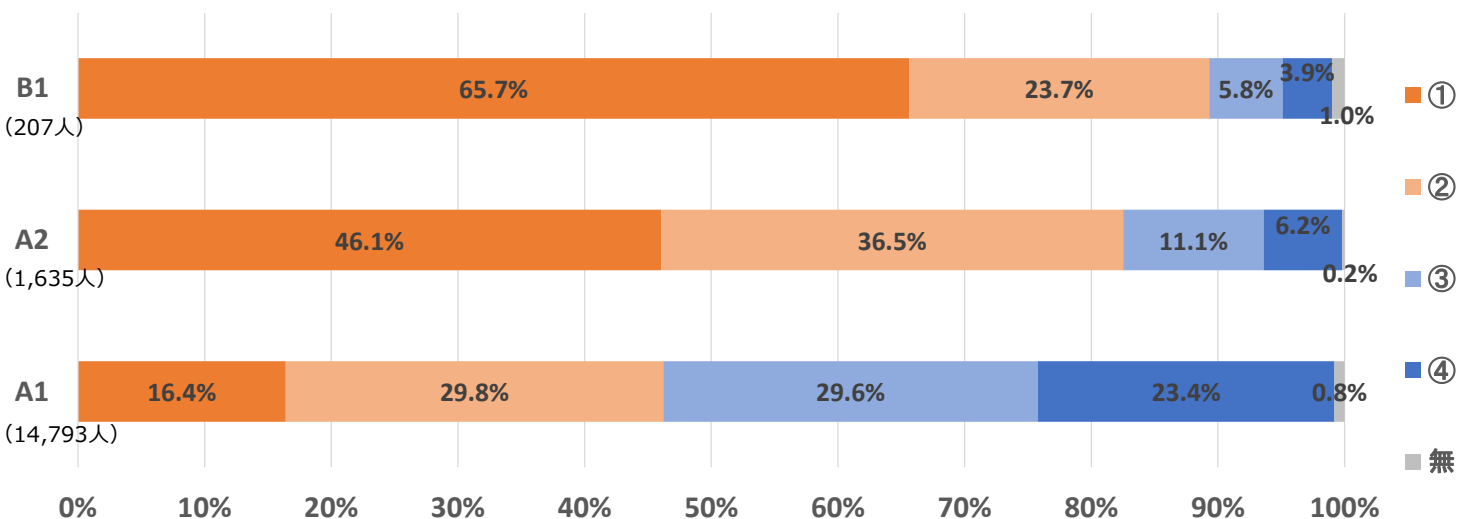
- 「英語の学習が好きだ」（選択肢①②合計）と回答した生徒は44.5%。平成26年度より2.9ポイント増加したものの、「英語の学習が好きではない」（選択肢③④合計）と回答した生徒が半数を超えている。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語の学習が好きだ」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



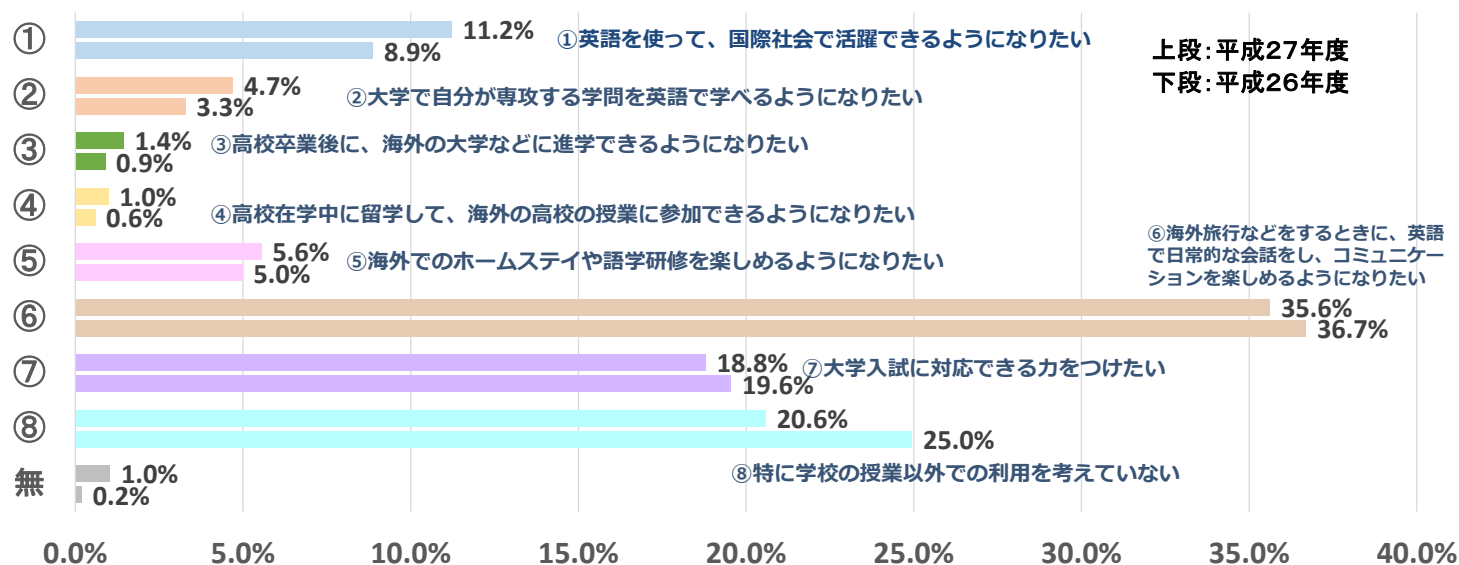
1. 英語学習に対する生徒の意識 ②

現在の英語力と将来の英語使用のイメージ

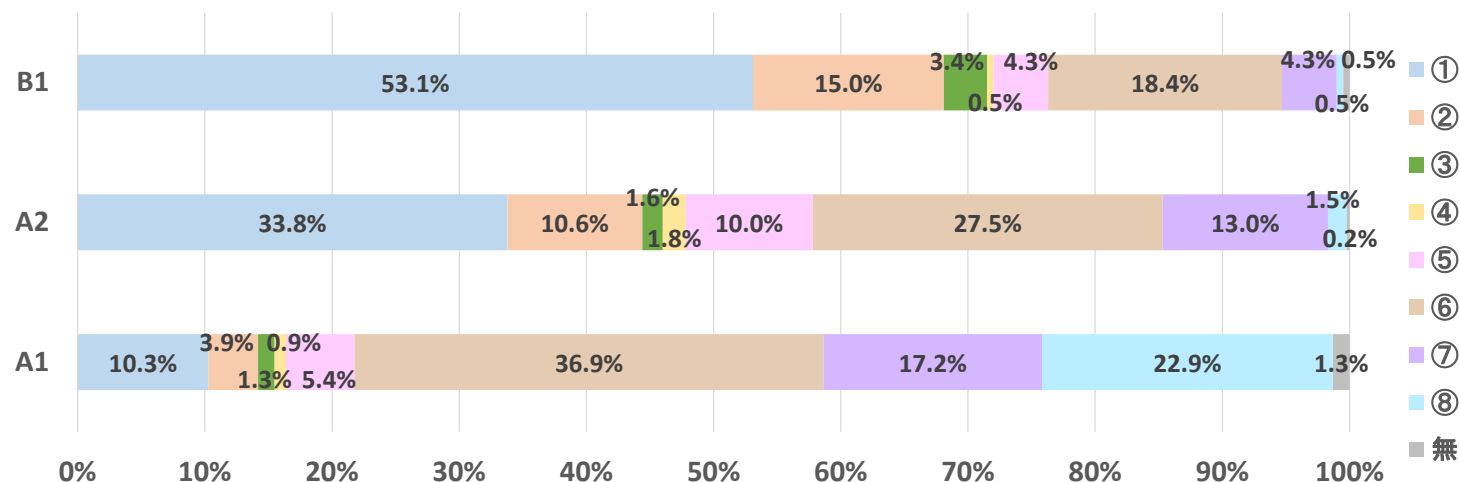
- 「①国際社会で活躍できるようになりたい」、「②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになる」という回答が、平成26年度より増加（①：2.3ポイント増加、②：1.4ポイント増加）した。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、「①国際社会で活躍できるようになりたい」と回答した生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい
- ②大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになる
- ③高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
- ④高校在学中に留学して、海外の高校の授業に参加できるようになりたい
- ⑤海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになる
- ⑥海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになる
- ⑦大学入試に対応できる力をつけたい
- ⑧特に学校の授業以外での利用を考えていない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



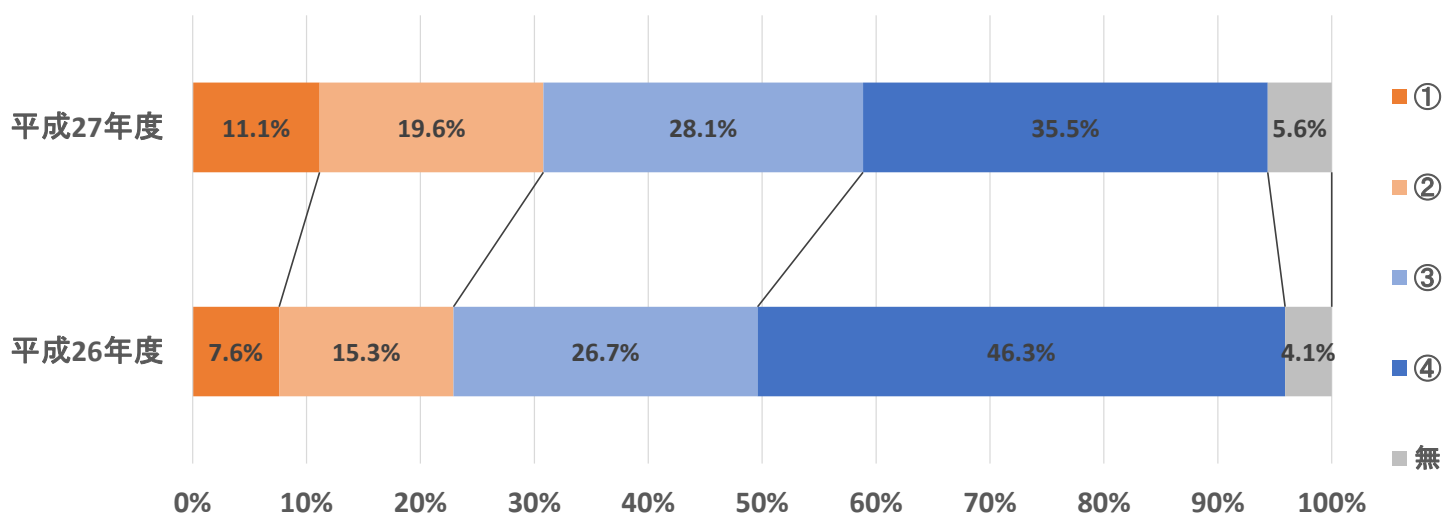
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ①

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」

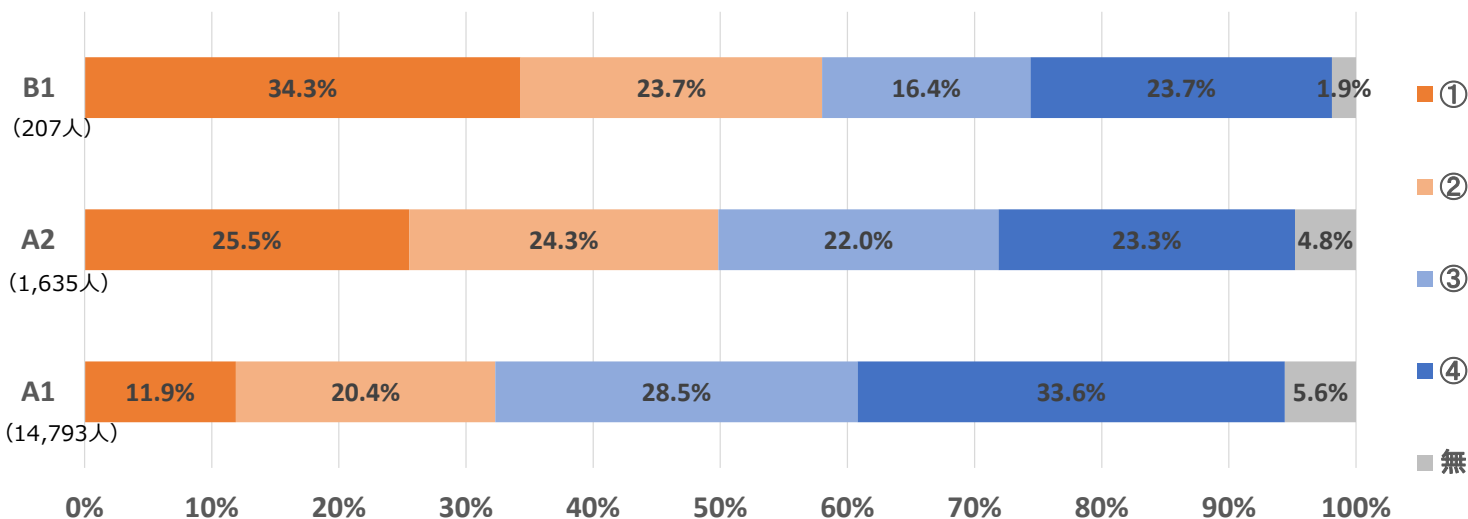
- 英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと回答した生徒（選択肢①②合計）は30.7%で、平成26年度より7.8ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



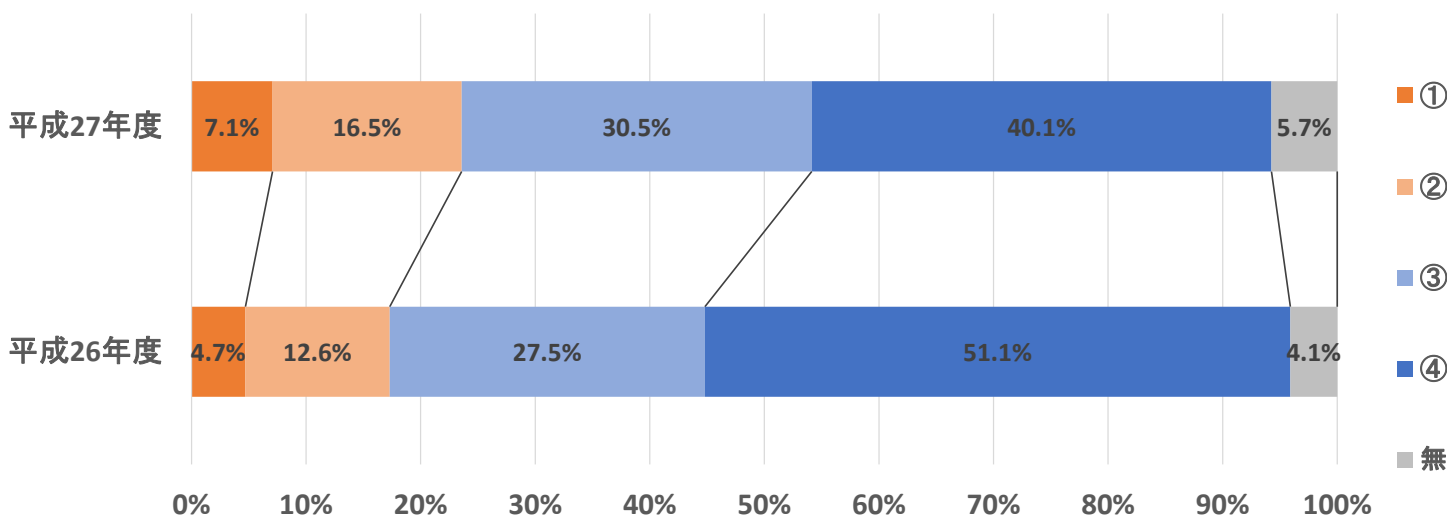
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ②

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」

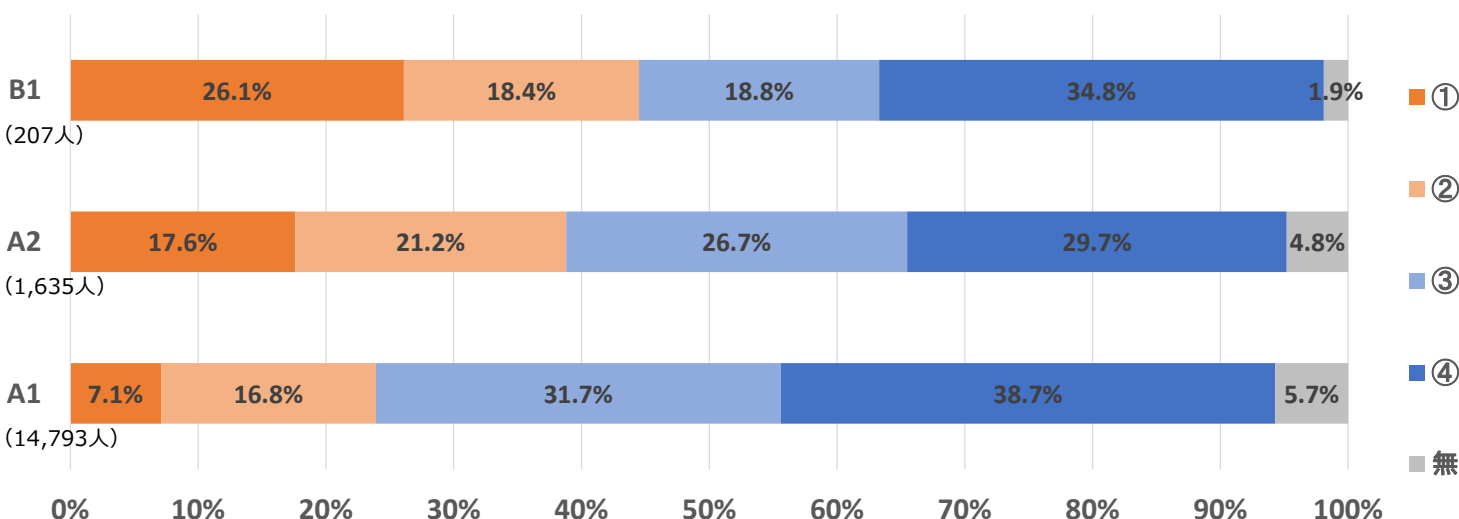
- 英語でディベートやディスカッションをしていたと回答した生徒（選択肢①②合計）は23.6%で、平成26年度より6.3ポイント増加し、改善が見られる。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でディベートやディスカッションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「書くこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語でディベートやディスカッションをしていましたか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



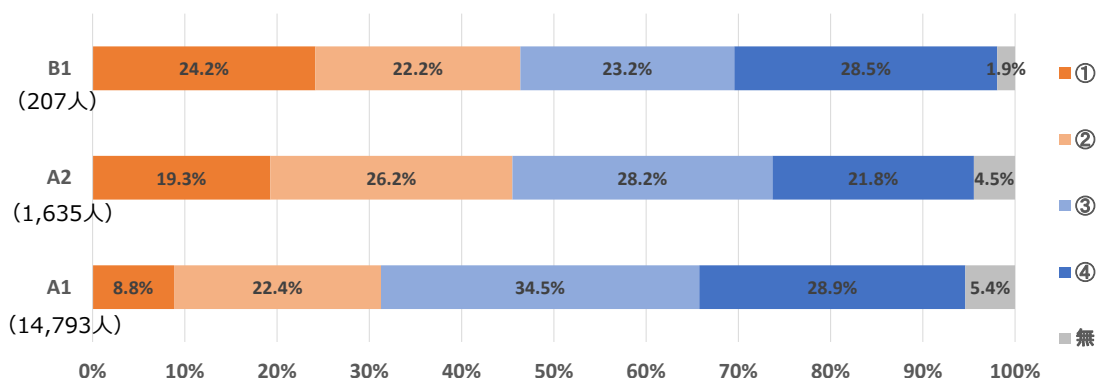
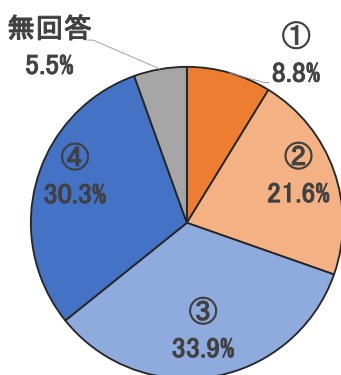
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識③

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「話すこと」

- 「与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていた」（選択肢①②合計）という生徒の割合は30.4%。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、与えられた課題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていましたか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

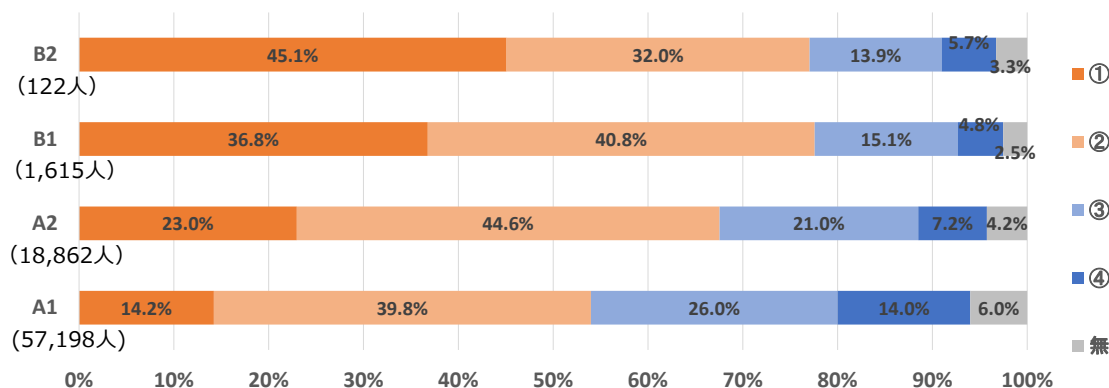
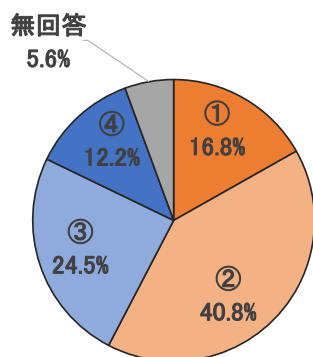
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ④

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」「読むこと」

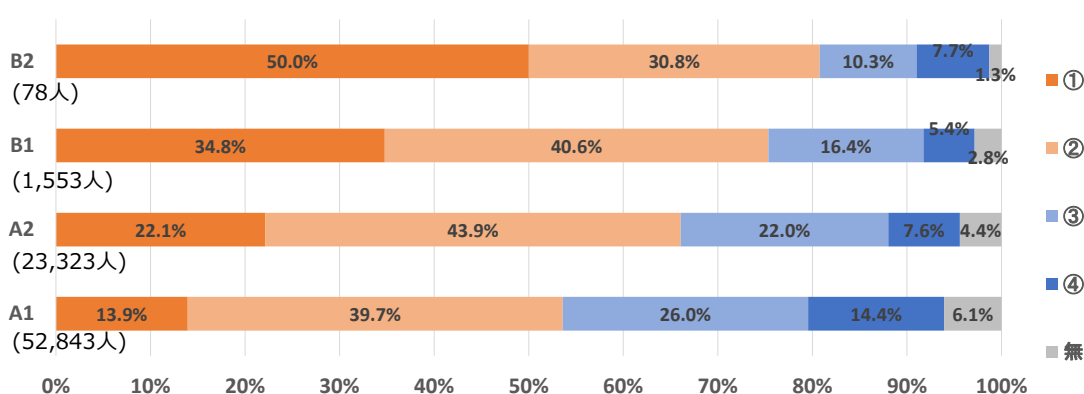
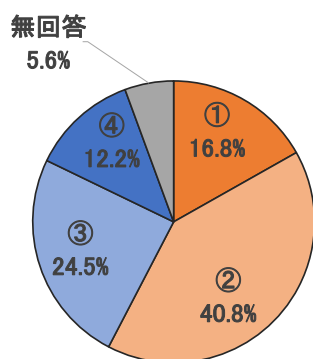
- 英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていた生徒（選択肢①②合計）は、57.6%と半数を上回る。
- A2レベル以上では、選択肢①②合計の回答割合が、60%を超える。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いたり読んだりする際、未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりするなどして理解するようにしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス



※「読むこと」のテスト結果とのクロス

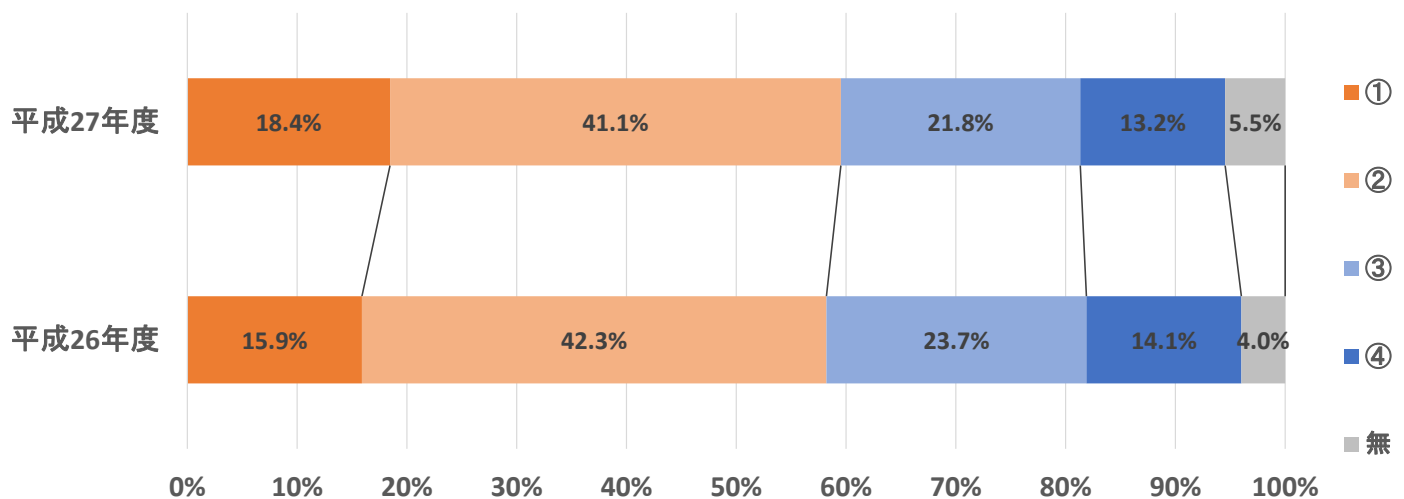
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑤

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「聞くこと」

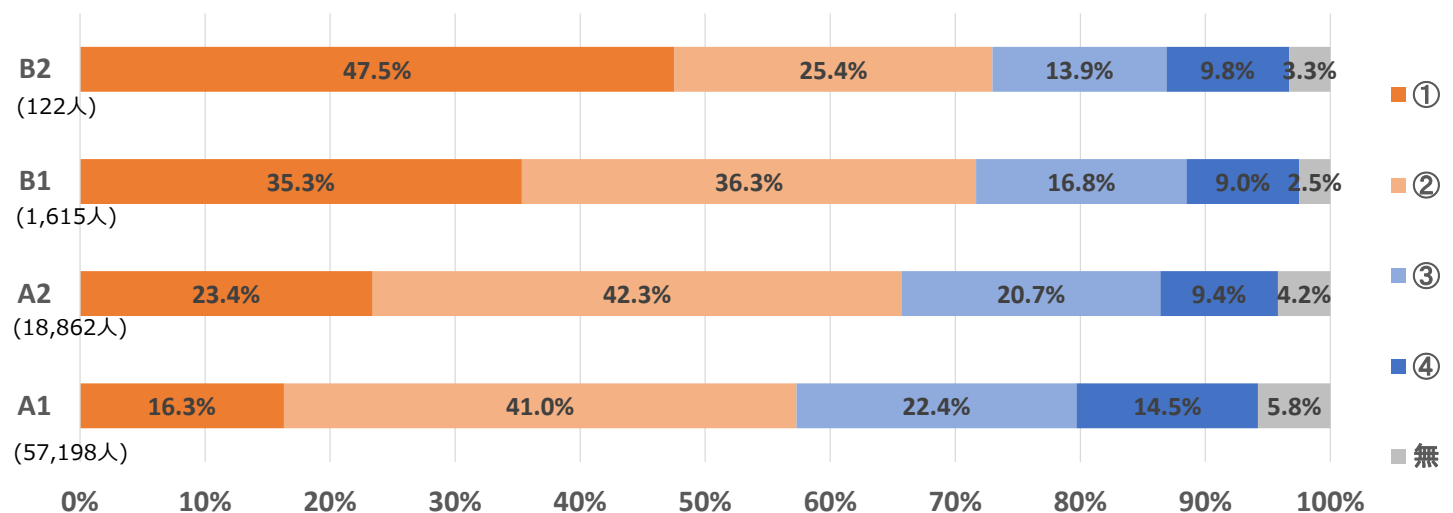
- 英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていた生徒（選択肢①②合計）は59.5%で、平成26年度より1.3ポイント増加。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、「英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて、（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



■ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス



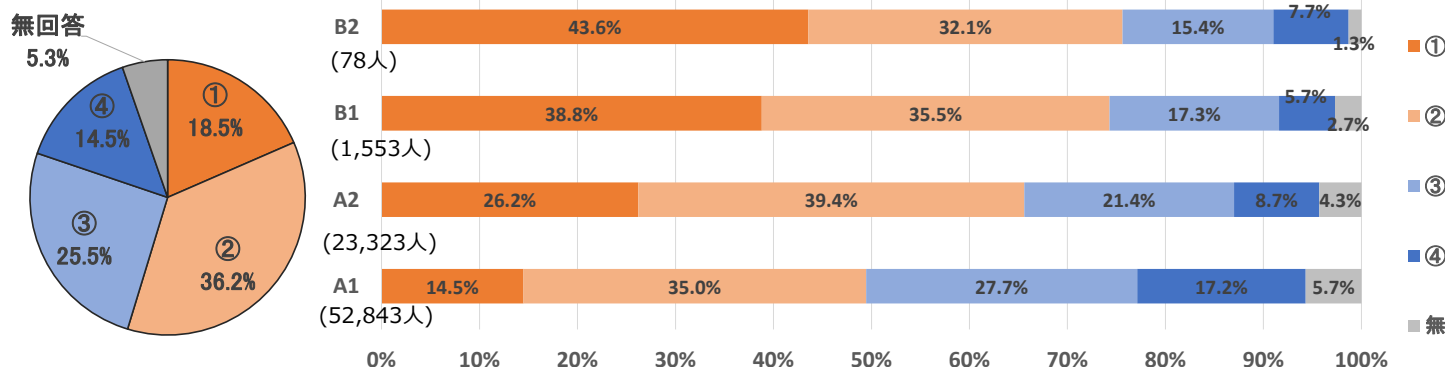
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑥

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識「読むこと」

- 速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていた生徒（選択肢①②合計）は54.7%と半数を上回る。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「読むこと」のテスト結果とのクロス

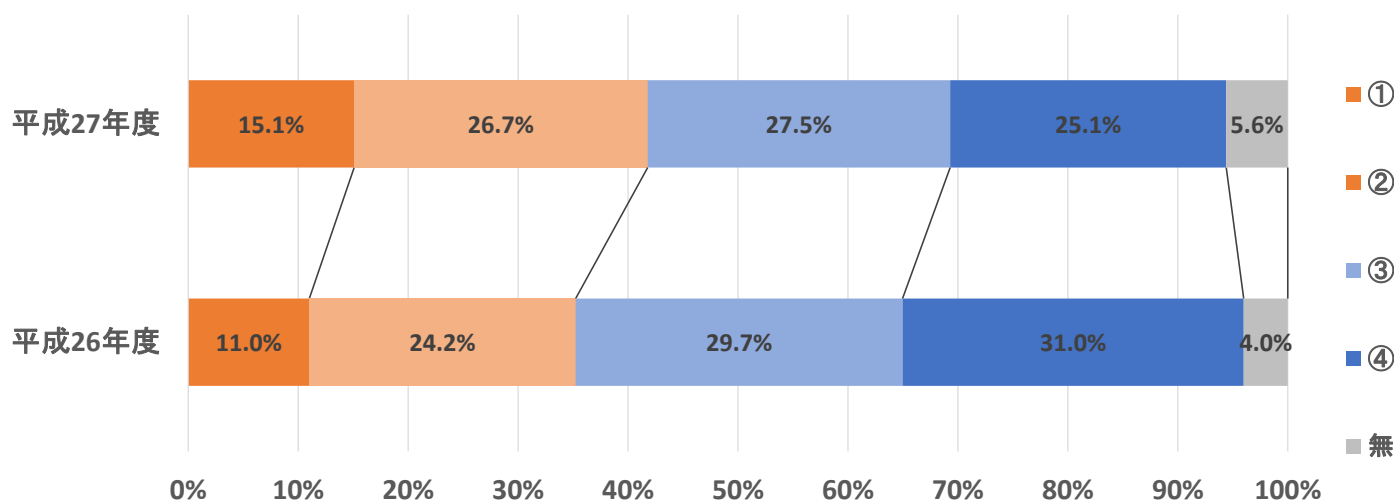
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑦

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 <技能統合型：聞いたり読んだりして話すこと>

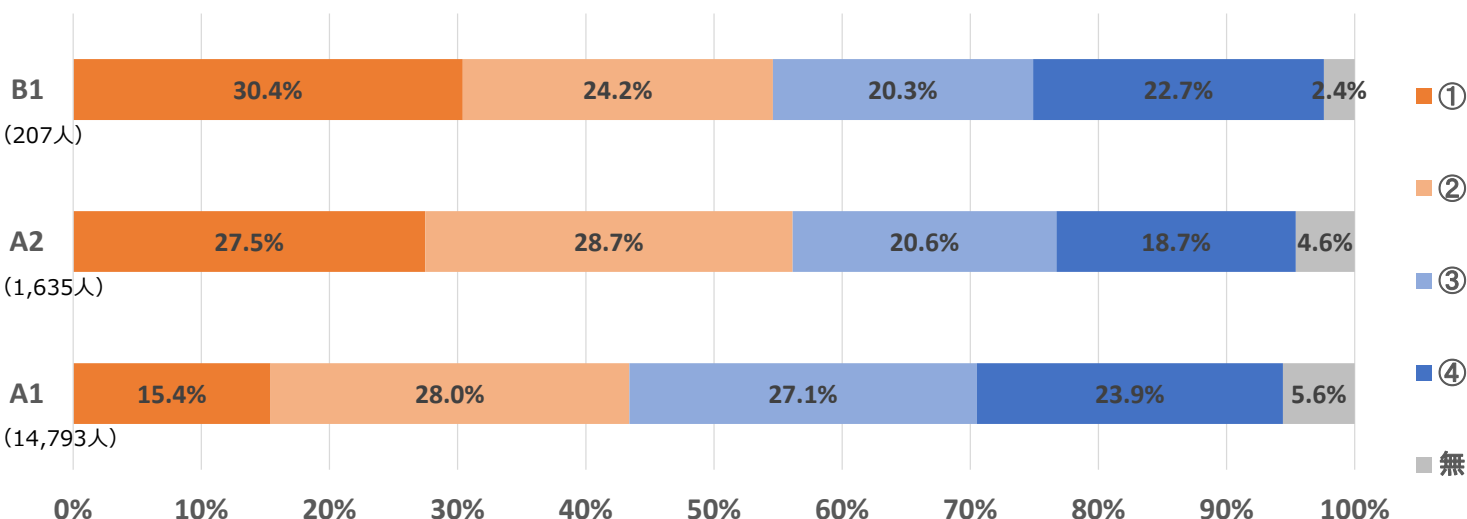
- 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた生徒（選択肢①②）は41.8%で、平成26年度より6.6ポイント増加。
- 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合は、「話すこと」についてA1レベル（43.4%）より、A2レベル以上（A2：56.2%、B1：54.6%）の方が高い。（「読むこと」についても同様の傾向）

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



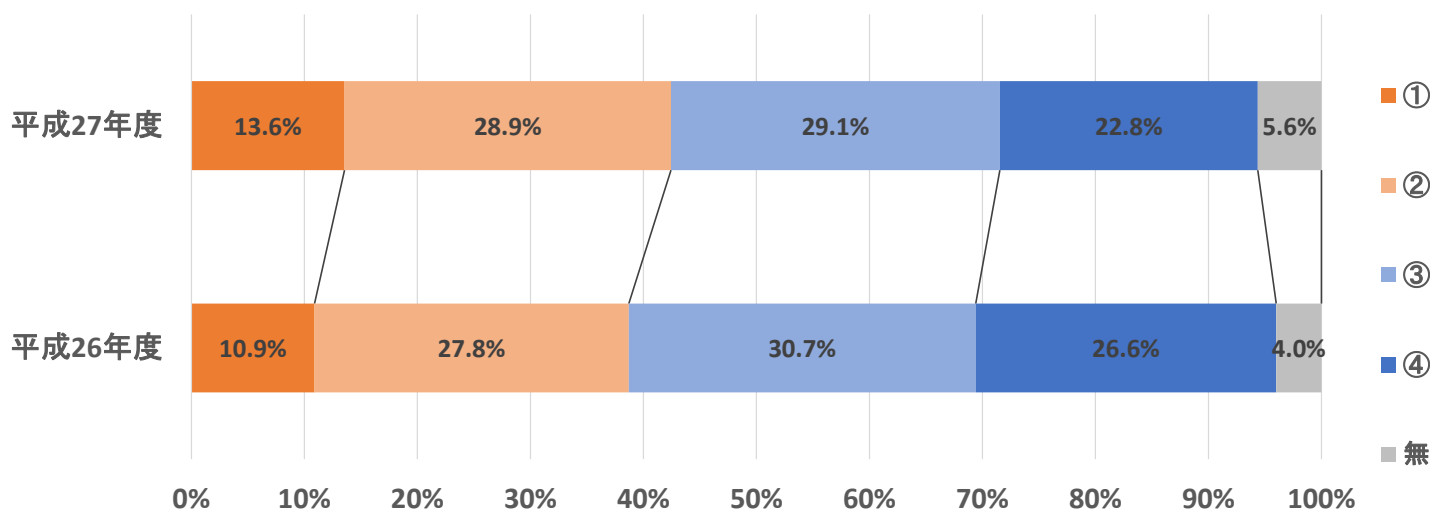
2. 生徒の4技能の言語活動に対する意識 ⑧

生徒の4技能を通じた言語活動に対する意識 <技能統合型：聞いたり読んだりして書くこと>

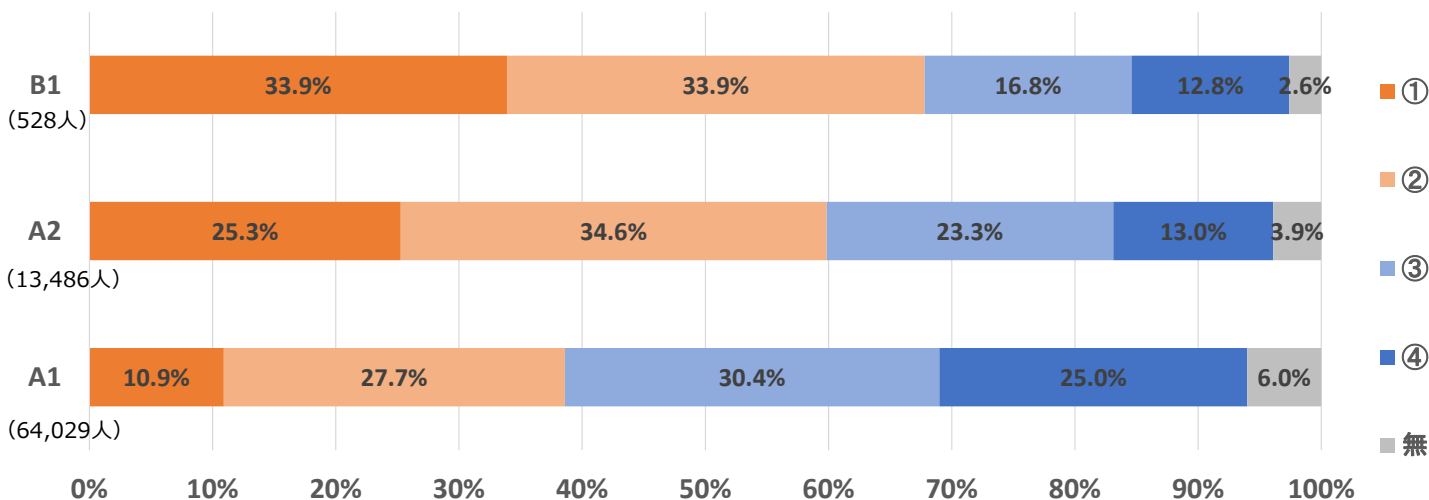
- 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた生徒（選択肢①②合計）は42.5%で、平成26年度より3.8ポイント増加。
- 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



■ 「書くこと」のテスト結果とのクロス



※ 「書くこと」 B2レベル該当人数1名につき非表示

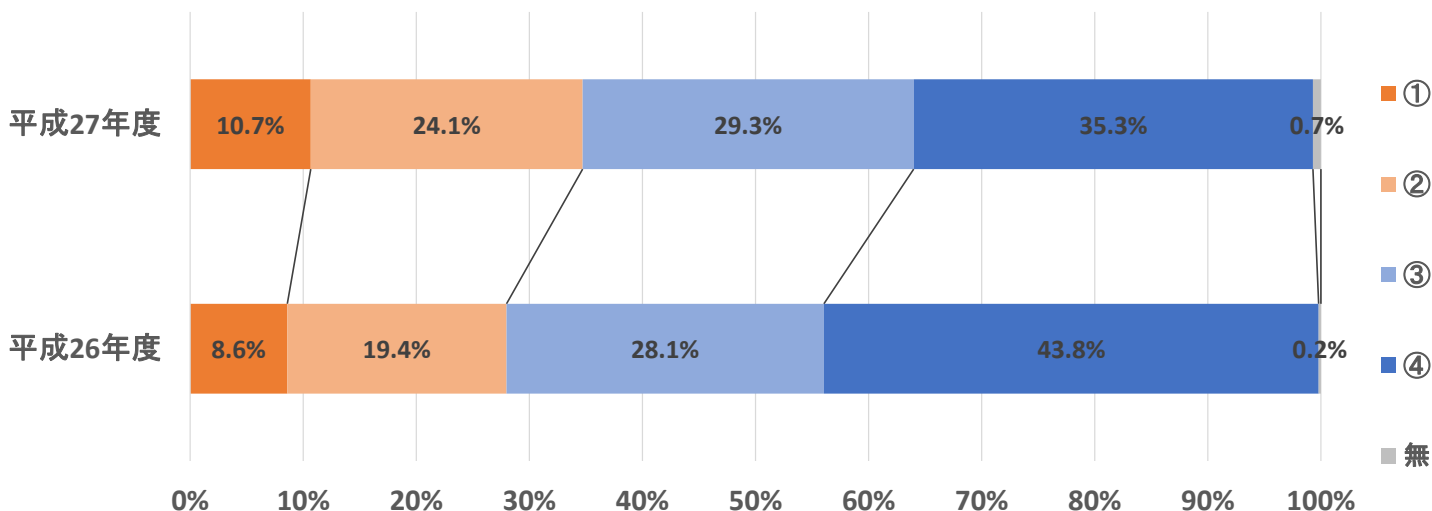
3. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識 ①

教員の授業における言語活動の指導 <スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション>

- スピーチやプレゼンテーションを行っている教員（選択肢①②合計）は、平成26年度より6.8ポイント増加したものの、依然として34.8%と少ない。
- ディベートやディスカッションを行っている教員（選択肢①②合計）は、平成26年度より3.7ポイント増加したものの、依然として10.6%と非常に少ない。

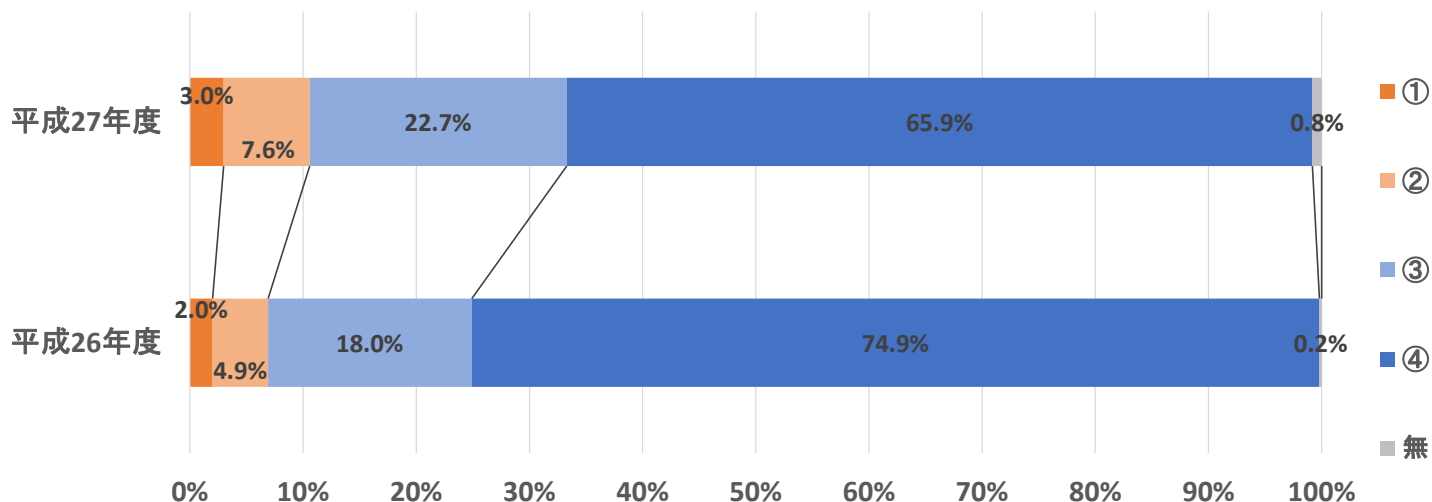
問 スピーチやプレゼンテーションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



問 ディベートやディスカッションを行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



3. 教員の授業における言語活動の指導に対する意識 ②

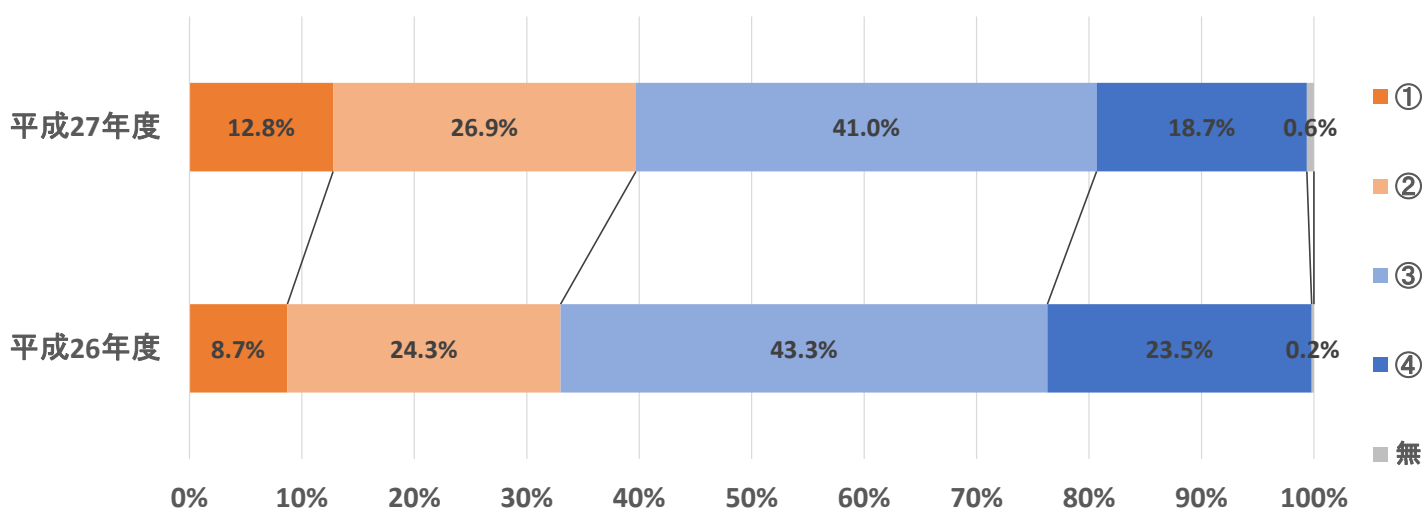
教員の授業における言語活動の指導

<技能統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動>

- 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合いや意見交換の活動を行っている教員（選択肢①②合計）は39.7%、書く活動を行っている教員（選択肢①②合計）は46.7%で、いずれの活動も平成26年度より増加（意見交換：6.7ポイント増加、書く活動：7ポイント増加）している。

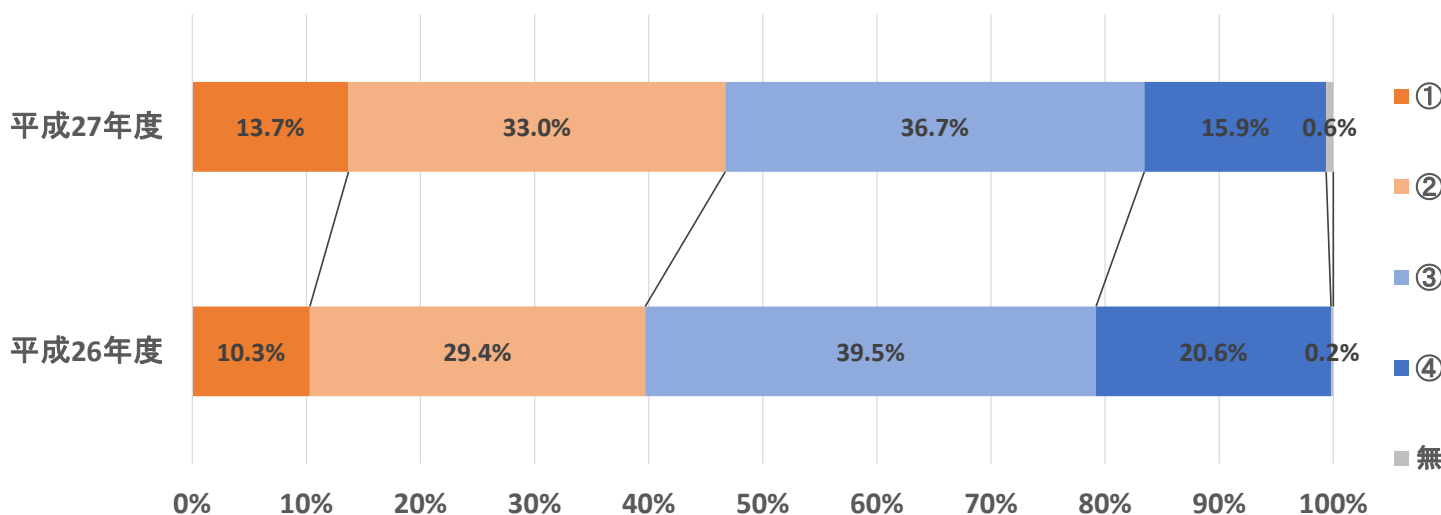
問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



問 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



学校の取組紹介①：「考えて、伝える」活動を増やし、コミュニケーション力を育成する

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年10月調査日時点）

学級数・生徒数	18学級（709名）／第3学年…6学級（239名）
ALT活用状況	常勤のALTが2人。第1学年と第2学年の授業に、各クラス週1時間入る。
備考	平成15年度～平成20年度、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒4技能すべてが全国平均を大きく上回る。

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	166.0	172.9	78.4	9.9
全国平均点（公立学校）	131.9 / 320	120.7 / 320	37.5 / 144	4.3 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒自分の意見を発信する活動の実施率が高い。

- ◆「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていた」と答えた生徒が**91.4%**と、全国平均の41.8%を大きく上回っている。
- ◆「英語でスピーチやプレゼンテーションをしている」と答えた生徒が**89.6%**と、全国平均の30.7%を大きく上回っている。

4 特色ある授業内の取組

①「初見」を重視した英文理解のステップ

授業前は教科書の重要語句のハンドアウトを渡すだけで、**英文は事前に読ませない**。実際のコミュニケーション場面を意識して、**授業中に初見で教科書の英文を読ませる**ことを重視している。新出単語も前後の文脈から推測させるようにしている。

②英語のコミュニケーション活動を活発化させる3つの工夫

（1）授業中に**細かい間違いを恐れる必要はない**ことを入学後に伝える。（2）授業中に行われる「**インタラクション**」では、**答えが多岐にわたるような質問**や、**自己表現したい話題**を取り上げる。（3）**コミュニケーションを通じて内容を理解する授業**に変更するため、従来よりも**易しい教科書を選定**した。

③「考えて、伝える」を繰り返して思考力と表現力を身につける

言語活動を「**自分の考えや気持ちを表現するもの**」にとらえ、「**考えて、伝える**」活動を授業に多く取り入れている。授業内のテーマに応じて、ミニディベートを行ったりエッセイを書かせたりするなど、自分の意見を表現する場を多く設けている。

特色あるその他の取組

○パフォーマンステストと学校行事を兼ねた「コンテスト」

スピーチコンテストやプレゼンテーションコンテストなど様々な行事があるが、そのクラス内予選をパフォーマンステストの場として設定している。



○英語科教員全員で作るCAN-DOと共通ハンドアウト

CAN-DOリストは英語科教員全員で作成し、生徒の英語力のゴールの目線合わせにつながった。授業中使用するハンドアウトも共通化し、授業方針を統一している。



（先生と生徒のインタラクション）



（自分の意見を述べ合うペア・ワーク）

学校の取組紹介②：学力の特性に合わせた細やかな工夫と、豊富なアウトプット活動で英語力を鍛える

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年10月調査日時点。学科名はⅠ～Ⅳで表示）

学級数・生徒数	Ⅰ学科／第3学年…2学級（80人）、Ⅱ学科～Ⅳ学科／第3学年…4学級（160人）
ALT活用状況	非常勤のALTが1人。3年次は月に1回程度、授業に入る。
備考	普通科の他に3つの専門学科を併せ持つ学校で、進路は就職（6割程度）、大学・短大・専門学校などの進学（3割程度）と多様である。

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴⇒テストスコアは平均を下回るも、Speakingスコアが全国平均点に近い

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	110.9	95.2	17.7	3.4
全国平均点（公立学校）	131.9 / 320	120.7 / 320	37.5 / 144	4.3 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒即興で話す活動、自分の考えを英語で書く活動が全国平均を大きく上回っている。

- ◆「与えられた話題について、（特に準備することなく）即興で話す活動をしていた」と答えた生徒が**42.9%**と、全国平均30.4%を大きく上回っている。
- ◆「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と答えた生徒が**63.5%**と、全国平均42.5%を大きく上回っている。

4 特色ある授業内の取組

①「準備型」から「即興型」へ。生徒が着実に力をつけるアウトプット指導の設計

1年次では話す原稿を準備したがっていた生徒が、3年次にはグループ・ワークで出た意見をその場でまとめ、英語でプレゼンテーションすることができるようになる。日々の授業内のアウトプット活動が「準備型」から「即興型」へ、を意識して設計されている。

②教科書の素材を図解やしたり会話型に変換したりして理解を促進

教科書の英文をチャートなどで図解したり、説明文を2人が会話で説明する形式に直したりするなど、ハンドアウトを工夫している。生徒の理解が促進され、その後の活動も活発になる。

③「書く」と「話す」の連携。パフォーマンステストで評価

インプットした情報の概要や要点を「書く」活動で整理し、それをもとに「話す」活動を行うなど、授業中はアウトプット活動が多い。アウトプット活動は年4回のパフォーマンステストで評価されるので、生徒も活動に意欲的である。



（資料を用いて自分のアイデアを伝えるペア・ワーク）



（グループ・ワークの結果をクラス全員の前でプレゼンテーション）

特色ある授業外の取組

○修学旅行先で外国人観光客にインタビュー

2年次の修学旅行で京都を訪れた際に、観光に来ている外国人に、日本に来た目的などをグループでインタビューし、写真撮影。帰ってきてからインタビュー内容をポスターにまとめ、校内に掲示した。



学校の取組紹介③：豊富なスピーキング活動と、話したことについて書かせる指導で生徒のアウトプット力を高める

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成27年10月調査日時点）

学級数・生徒数	18学級（708名）／第3学年…6学級（236名）
ALT活用状況	常勤のALTが1人。第1学年を中心に授業に入り、第3学年では入試も視野に入れた個別指導を行っている。
備考	県立の併設型中高一貫校。

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴 ⇒全技能とも全国平均を上回るが、特に発信技能のWritingとSpeakingのテストスコアが高い

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	164.7	156.8	76.6	7.6
全国平均点（公立学校）	131.9 / 320	120.7 / 320	37.5 / 144	4.3 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒ディベート、ディスカッション、意見を書くなどの発信活動の実施率が高い

- ◆「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていた」と答えた生徒が**93.0%**と、全国平均**42.5%**を大きく上回っている。
- ◆「英語でディベートやディスカッションをしている」と答えた生徒が**90.4%**と、全国平均**23.6%**を大きく上回っている。

4 特色ある授業内の取組

①幅広い学力層に対応するための工夫

併設型中高一貫校だが他の中学校からの進学者もおり、入学生の学力層が幅広い。それに対して、
 (1) **生徒同士での教え合いを促進する「英語独自の座席配置」**で授業する、(2) 英語が得意な生徒の提出物を名前を伏せて他生徒と共有し、**身近なゴールのイメージを持たせる**、など、学力層が広いことを効果的に利用した工夫を行っている。

②アウトプット活動に重点を置いた授業設計

教科書の内容をもとに、「**話す活動⇒書く活動**」の順で**アウトプット活動**を多く取り入れている。話す活動では、**ブレインストーミング、ミニディベート、ディスカッション**など、テーマに応じて手法を変えて実施している。話す活動の後にはエッセイなど「**書く課題**」を**続けて与え、話した内容を整理**してまとめさせる。「話す」⇒「書く」を授業の中で多く取り入れることで、生徒のアウトプット力が高まっている。

③実際のコミュニケーション場面を意識した指導

実際のコミュニケーション場面を意識した授業指導を心がけている。**教科書の内容把握は必ず初見で行わせ、未知語も前後の文脈から意味を推測**させている。辞書の使い方にも気を付けており、エッセイなどを書かせる際も、**まずは辞書を使わず、自分で使える表現を駆使して書く**ように指導している。



(マインドマップでブレインストーミングしている様子)



(3人1組で行うミニディベートの様子)

特色あるその他の取組

○姉妹都市の高校と交換留学

第1学年と第2学年ではオーストラリアの姉妹都市の高校と交換留学を行っている。各学年5名の生徒で10日間滞在し、現地の高校の授業に参加するなど、実際に英語を使う場面を多く経験している。



○卒業生アンケートで卒業後の英語使用場面を知る

大学に進学した卒業生が訪問してきた際にアンケートを実施。「高校時代の学習で進学してから役に立ったことは？」など英語学習についてのアンケートを実施している。集計した内容は教員で共有するだけでなく、生徒にも伝えており、高校卒業後の英語使用場면을イメージさせることができている。

【調査問題の構成】

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・43問（約45分）
 - 「聞くこと」：多肢選択式・2パート構成・36問（約23分）
 - 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（約27分）
 - 「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述
 について評価基準を設け、教員が面接試験を（約10分）
- } 時 約 計
 } 間 2
 } 単 位
 } 約
 } 10
 } 分

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 （「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力）			
問題構成	語彙・語法問題 14問 （短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力） ※A2～B1相当	課題解決問題 18問 （日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力） ※A2～B1相当	意見展開問題 1問 （与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例を元に意見と理由を述べる力） ※A2～B1相当	音読問題 1問 （適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大ききで話す力） ※A1相当
	概要把握問題 6問 （与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力） ※A2～B1相当	要点理解問題 18問 （英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力） ※A2～B2相当	情報要約問題 1問 （英文音声で聞いた情報を理解し、指定語数で要約して書く力） ※B1～B2相当	質疑応答問題 1問 （試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力） ※A1～B1相当
	情報検索問題 8問 （与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力） ※A2～B1相当			意見陳述問題 1問 （与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力） ※A2～B1相当
	要点理解問題 15問 （まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力） ※B1～B2相当			

【生徒・学校・教員に対する質問紙調査の構成（約15分）】

項目	内容
生徒質問紙	<input type="checkbox"/> 英語そのものに関する意識 <input type="checkbox"/> 英語使用に関する経験 <input type="checkbox"/> 英語に関する試験の受験経験 <input type="checkbox"/> 英語の学習方法・内容や学習時間について <input type="checkbox"/> 学校の英語の授業について
学校質問紙	<input type="checkbox"/> 教員単位での指導の実態について
教員質問紙	<input type="checkbox"/> 学校組織での指導の実態について

生徒への質問	教員への質問	学校への質問
<input type="checkbox"/> 英語に関する意識 ・英語学習への関心 ・英語を身につけ何をしたいか 【国際社会で活躍、大学で専門的に学ぶ、海外留学、日常生活、大学入試、他】 <input type="checkbox"/> 英語使用の経験 ・高校生になってから経験したこと 【イングリッシュキャンプ、スピーチ大会、プレゼンテーション、留学、ホームステイなど】 <input type="checkbox"/> 英語の資格・検定試験の受験経験 <input type="checkbox"/> 英語の学習時間・手段 ・予習・復習時間、PC、タブレットなど機器 <input type="checkbox"/> 4技能の活動状況 ・生徒同士で意見交換などを行っていたか	<input type="checkbox"/> 英語の授業での言語活動や指導 ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど <input type="checkbox"/> 英語の授業での英語の使用状況 <input type="checkbox"/> 生徒が英語の授業でコミュニケーション活動を行っている割合 <input type="checkbox"/> 校内外の研修会への参加状況 <input type="checkbox"/> 自分の英語力を向上させるための取組 ・英字新聞を読む、テレビの英語講座、語学学校など <input type="checkbox"/> 英語の資格・検定試験の受験状況	<input type="checkbox"/> 研修の実施状況 ・模擬授業、授業相互参観、事例研究など <input type="checkbox"/> 学校外研修の活用状況 <input type="checkbox"/> 言語活動に重点を置いた指導計画作成状況

問題の特徴 ~ Reading ~

R

Part B
情報検索問題

与えられた英文の題材から、短時間で必要な情報を引き出す力
(情報検索力)を測定する問題

CEFR:A2

BLC 59
One-Day Concert Tour
Sunday, July 18th

City	Little Rock*	Sioux Falls	Dobbins Park
Place	Super Arena	Harbor Stadium	City Dome
Time	8:00 am - 11:00 am	2:30 pm - 5:00 pm	6:30 pm - 9:00 pm
Prices:			
16 years old and over	\$40.00	\$40.00	\$45.00
15 years old and under	\$20.00	\$20.00	\$25.00

* The Little Rock concert, the first of this historic day, will be broadcast live on TV. Interview: 8:00 am - 8:30 am. Concert: 8:30 am - 11:00 am.

Repeat showing of the Little Rock interview and musical performance: July 19th, 8:30 am to 11:30 am.

Win a free Blu-ray disc!
E-mail your questions for BLC 59 to the competition address on the group's official website at www.blc59gtec.com. If your question is read out during their interview on stage at Little Rock, you will be sent a signed copy of their last Blu-ray disc!

New Blu-ray disc!
The Dobbins Park concert will be recorded for their upcoming *Live at City Dome* Blu-ray disc! Receive a 20% discount if you order the Blu-ray disc online using the special code on your concert ticket! See the **Dress up!** section below for details on how to get their upcoming Blu-ray disc for free!

Dress up!
Go to a concert dressed as a member of BLC 59 (Watch their last Blu-ray disc, *Our Best Bits*, for ideas!) and receive a coupon, which you can exchange for the new Blu-ray disc, once it is released!

Shop online!
From Monday, July 19th until Saturday, July 31st, receive a free poster, based on the cover of their upcoming Blu-ray disc, with any purchase of BLC 59 products from their website, by entering the number printed on your concert ticket!
Upcoming single, *I Love Fluffy Toys*, available to buy from July 5th!
Upcoming Blu-ray disc, *Live at City Dome*, available to pre-order from August 1st!

25. If you only wanted to watch the live broadcast of the musical performance at Little Rock, what time should you watch TV?

- [A] From 8:00 am to 8:30 am.
- [B] From 8:00 am to 11:00 am.
- [C] From 8:30 am to 11:00 am.
- [D] From 8:30 am to 11:30 am.

正答

C

正解率: 24.9%

26. What should you do to receive a coupon for a free copy of BLC 59's upcoming Blu-ray disc?

- [A] Call the number printed on the concert ticket.
- [B] Go to a concert dressed as a BLC 59 member.
- [C] Have your question to BLC 59 read out on TV.
- [D] Purchase a BLC 59 product from the online store.

正答

B

正解率: 23.5%

Copyright © 2016 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」
本資料における問題は、出題イメージを共有するため
「GTEC for STUDENTS」よりサンプル問題として提供

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
また、聞き手に伝わるように音読する。

問題の特徴 ~ Reading ~

R

Part B
概要把握問題

与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を把握する力を
測定する問題

CEFR:B1

In 1859, Jean Henri Dunant, who was a deeply committed social worker, was traveling through Europe during wartime, when he witnessed the terrible after-effects of a battle. He decided he had to do something, so he organized local citizens to help treat the injured soldiers, no matter which side the soldiers had fought on. In 1863, he founded an organization to provide help to people in wartime, which later became the International Committee of the Red Cross (ICRC). For his help in creating this great benefit to society, Dunant was named the winner of the first Nobel Peace Prize.

15. What is this passage mainly about?
- [A] How Jean Henri Dunant helped create the ICRC.
 - [B] How the citizens of Europe helped soldiers during wartime.
 - [C] Why an international committee helps to treat all injured soldiers.
 - [D] Why the Nobel Peace Prize is a benefit to society.

正答

A

正解率: 35.4%

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
また、聞き手に伝わるように音読する。

問題の特徴 ~ Reading ~

R Part C
要点理解問題

論説文などを題材とし、各段落のポイント及び英文全体の主旨を理解する力を測定する問題

CEFR:B2

Despite technological advances and the recent popularity of electronic books (e-books), printed books are still the preferred choice as textbooks at American universities. Research was conducted on 19 university campuses by an organization aimed at helping companies better understand university students' buying habits. It found that 74% of university students preferred printed books, and 53% were unsure about purchasing e-books or would not consider buying them even if they were available. Perhaps for this reason, many universities are using both: they use printed books as the main text for a course and e-books as extra materials.

Despite their doubts about this new technology, American university students are still more enthusiastic about e-books than students in Europe. 15% more American university students use e-books than university students in the United Kingdom, Germany, the Netherlands, and Denmark. One publishing company noted that e-books are simply less common in these countries, and that European universities promote their use less often.

American students explain their preference for printed books by claiming that they are easier to read and to write notes in. However, some American students say digital textbooks are cheaper, more convenient to carry, and easier to use when trying to find particular topics or passages.

Publishing companies are constantly improving e-books to make them more attractive for use as textbooks to university students around the world. One major publishing company reports that they account for over 50% of their higher education sales. However, it is highly unlikely that publishing companies will ever stop producing printed books.

39. What is the main focus of the passage?

- [A] Benefits for universities that offer e-books.
- [B] Demands for publishers to offer e-books.
- [C] The approaches used to attract interest to e-books.
- [D] The increasing use of e-books as textbooks.

正答
D

正解率：23.7%

実際はこの英文に対して、上記Q39を含めて5つの設問があります。

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より
イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

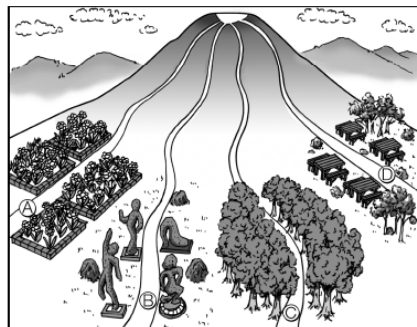
問題の特徴 ~ Listening ~

L Part A
課題解決問題

日本語で事前に与えられる状況設定及びイラストと放送される英文から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力を測定する問題

CEFR:A2

あなたはアメリカ人の友だちのアンディと電話中です。明日、アンディと山登りに行く予定で、どこで待ち合わせるかを話しています。まず、アンディからあなたに話しかけます。



1. Where will you meet Andy?

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

2. What will you take with you tomorrow?

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

正答1

B

正解率：37.8%

正答2

A

正解率：14.5%

<スクリプト>
Question 1
M: Shall we meet at the flower garden tomorrow?
F: It'll be too busy there, just like at the picnic area. How about the forest?
M: It's too dark! The statue park looks interesting. Let's meet there!
F: OK!
Question 2
M: It's cold on the mountain, so put a sweater in your bag.
F: Right. How about a raincoat?
M: Don't bother, the weather should be clear. I'll pack some snacks for us.
F: OK. Should I take my hiking boots?
M: They're not necessary.

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より
ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

問題の特徴 ~Listening ~

L Part B
要点理解問題

一定以上の長さの英文音声の中から、事前に与えられる質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導く問題

CEFR: B2

1. According to the passage, what changes are happening to the languages of the world?

- [A] Languages are increasing in number along with the human population.
- [B] Language is becoming increasingly essential for humans to survive.
- [C] A language is disappearing every two weeks.
- [D] Languages spoken in remote areas are disappearing more quickly.

正答1
C

正解率：39.0%

正答2
D

正解率：20.6%

正答3
C

正解率：26.8%

2. Why did people have to leave the village of Shishkat?

- [A] Rocks from a mountain fell on the village.
- [B] The road leading to the village was blocked.
- [C] River water near the village became too dirty to drink.
- [D] The village was destroyed by a flood.

3. According to the passage, what will happen to the Domaki language in the future?

- [A] Its speakers will need to move to a different place.
- [B] Its speakers will force their families to use it.
- [C] It will have difficulty surviving.
- [D] It will be taught to people in other countries.

<スクリプト>
Although the human population on Earth's increasing, the number of languages spoken is decreasing. One language disappears every two weeks. Sometimes even natural disasters cause language loss. For example, in Pakistan, an Asian country, the world's entire population of Domaki language speakers lived in Shishkat, a remote mountain village by a river. In 2010, land fell from a nearby mountain and blocked the river. This caused a flood that destroyed the village. All the village people were forced to move to whatever housing was available. With the few remaining Domaki speakers living separately, their language is likely to die out.

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より
ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

問題の特徴 ~Writing ~

W Part A
意見展開問題

与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見や考えを説得力を持って書いて表現する問題

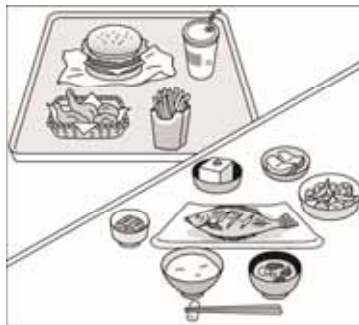
CEFR: ~B1

あなたは授業中に、下記のテーマで英語のエッセーを提出することになりました。

エッセーのテーマ：

最近、偏った食生活を送ったり、1日に3食をきちんと食べなかつたりする若者が増えていると言われています。このような若者の食生活について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えとそう考える理由を書きなさい。

<参考>



高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より
エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

問題の特徴 ~ Writing ~ (解答例)

W

Part B
意見展開問題

与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見や考えを説得力を持って書いて表現する問題

CEFR: ~ B1

<解答例>

I believe that young people should have a balanced diet. Here are several reasons why I think so.

Children these days seldom have three meals a day. Most of the time, they either skip breakfast or lunch. This is really worrying. As a matter of fact, having a healthy breakfast has a positive influence on a person's daily activities. It enables people to concentrate at a high level. Therefore, to do well at school, young people should stick to a balanced diet.

In today's world, fast food has taken the place of traditional food. It is cheap, so young people can afford it and the restaurants are convenient places to hang out with their friends. Therefore, less young people are going home to eat healthy, traditional food with their families. However, fast food is high in calories, so it can have a big influence on a person's health. If you eat too much of it, you can become very fat. If you are too fat, you can suffer from a variety of diseases and may have to stay in a hospital for an extended period. I hope young people will understand this and start avoiding fast food.

All things considered, I feel that having a balanced diet is absolutely necessary. It will keep everyone healthy and happy.

問題の特徴 ~ Writing ~

W

Part B
要約問題

170語程度のモノログを聞き、全体の内容を整理した上で、指定の時間内に必要な情報を簡潔に英語でまとめる問題

CEFR: ~ B2

これから読まれる英文を聞き、その内容を**30語程度の英語**で要約しなさい。なお、問題の途中でメモを取ってもかまいません。解答時間は4分です。 ※聞く時間は別途3分あり、問題全体では合計7分。

(放送英文)

Many farms just sell one thing. But have you ever heard of a pizza farm? A pizza farm is a farm that grows everything that is needed to make pizzas, such as tomatoes and onions. Pizza farms also make cheese. It is easy and useful to be able to quickly buy everything that you need to make a pizza in one place.

But do you know an interesting thing about pizza farms? Pizza farms are in the shape of a pizza! If you look down on a pizza farm from a plane, you will see that the farm does not have four straight sides like a box, but is round like a pizza. And each field on the farm has only three sides, almost like a triangle. Each field is like a piece of the pizza. Something different grows in each field. Yes, it's amazing! Pizza farms are in the form of a pizza!

<解答例>

Pizza farms are places that grow everything necessary to make pizzas. People can buy everything to make a pizza there. It is amazing that pizza farms are in the form of a pizza.

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

問題の特徴 ～Speaking～

S

Part B
質疑応答問題

与えられた70語前後の英文を黙読した後に音読し、適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを英語を話す力を測定する問題

CEFR: A1

本調査においては、テストの構成・運営上、音読をスピーキングテストの一部として含めている。

Some air pollution has natural causes, like windstorms and volcanoes, but most is the result of human activity. A blanket of dirty air covers most cities of the world. It mainly comes from cars and trucks and from factories that burn coal. The polluted air makes people sick, and it's especially bad for young children and aged people. Is this why countries are making rules to reduce air pollution?

< 試験官スクリプト >

Please look at the passage silently for 30 seconds.

(30 seconds)

Now, please read it aloud.

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

問題の特徴 ～Speaking～

S

Part B
質疑応答問題

受験者が聞いたり読んだりしたこと、経験したことなどに基づいて、質問に即興的に応答する問題

CEFR: A2～B1

< 試験官スクリプト >

Question No. 1:

According to the passage in Part A, what causes most air pollution?

Question No. 2:

What do you like to do in places with clean air, (pause) in the countryside, for example?

Question No. 3:

What is the most interesting city you have ever visited or heard of? Tell me about the city.

Question No. 4:

Which city do you want to visit in the future, and why?

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

問題の特徴 ~ Speaking ~ (解答例)

S

Part B
質疑応答問題

受験者が聞いたり読んだりしたこと、経験したことなどに基づいて、質問に即興的に応答する問題

<解答例>

No.1

Most air pollution is the result of human activity.

No.2

I like to go hiking in places with clean air, especially in spring and fall.

No.3

The most interesting city I have ever visited is Naha. I think it's interesting because there's a famous castle, a museum and a beautiful beach.

No.4

I'd like to visit Sydney, Australia. That's because I want to see the Sydney Opera House. I also heard that there are tours for people who want to climb the Sydney Harbour Bridge. The view must be beautiful from there!

問題の特徴 ~ Speaking ~

S

Part C
意見陳述問題

与えられた社会的な話題について、個人の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる問題

CEFR: ~ B2

Teachers should speak only English in English class.

Do you agree or disagree with this statement?

Give one or more reasons why you think so.

(試験官が準備時間60秒を測定します。60秒後に解答開始の指示を出します。)

<解答例>

I agree with this statement. In Japan, there are only a few opportunities to listen to English being spoken, so I think it's a good chance for English to be used. Also, if only English is spoken, the classroom feels like a place in an English-speaking country.

高等学校学習指導要領 外国語「コミュニケーション英語」より

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

【ライティング採点体制】

答案をスキャンデータで海外採点会場へ送り、海外専任スタッフが採点を行う。
採点監督者、採点チームリーダー、採点者の体制（※人数については受験人数・時期に対応して増員）で採点を実施。

組織内ではより確実な採点を行うため、同じ答案を2名の採点者が担当する。

* 採点監督者および採点者には、2ヶ月間の事前研修を実施。

【採点基準】

■ 1. 意見展開問題

		0	1	2	3	4	
内容 (意見)	課題に対する自分の意見や立場を伝えることができている。	表現 (語彙)	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	様々な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。
		表現 (文法)	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	様々な文のパターンを用いることができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な文のパターンを用いることができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。
内容 (理由)	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。	構成	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	文と文とのつながりが悪かつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができている。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができている。

■ 2. 情報要約問題

		0	1	2	3	4	
内容 (要点1)	1つめの要点を含むことができている。	表現	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、要旨が十分に伝わらないところが部分的にある。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、要旨を伝えることができている。	文章全体の構成がよく、文法上の誤りがない。十分に要旨を伝えることができている。

【スピーキング事前研修】

事前に送付するスピーキングテスト研修用DVDと冊子を活用し、研修を受けた状態で教員が面接試験を実施する。

【研修の目的】

実施環境の設定、出題内容、評価方法、評価基準について理解することを目的とする。DVDに収録されている「トライアル採点課題セット」に取り組み、内容理解度を確認する。

【研修の内容】

項目	目的	内容
テスト実施の流れ	スピーキングテストの実施の流れ（事前準備～実施～採点）を把握する。	テスト実施全体の流れ 事前準備 テスト実施 採点結果記入
採点について	採点観点と基準、応答例・採点法、採点基準ごとの解答例を把握する。	採点観点と基準 応答例・採点 各得点における解答例 ・ Part A（音読） ・ Part B（即興を前提とするやりとり） ・ Part C（ある程度の準備をした上で話すこと）
トライアル採点課題セット	トライアル採点を行い、理解度を確認する。	トライアル採点課題セットの活用について 5名分の応答例

【テスト実施の全体の流れ】

1. 事前準備

- テスト構成、採点換点・採点基準を確認する
- 問題用紙、エントリーカードなどの準備を行う
- 受験者に事前に注意事項を伝達する
- 試験会場の設営を行う

2. テスト実施

- 入室 → 本人確認 → 質疑応答 → 退室

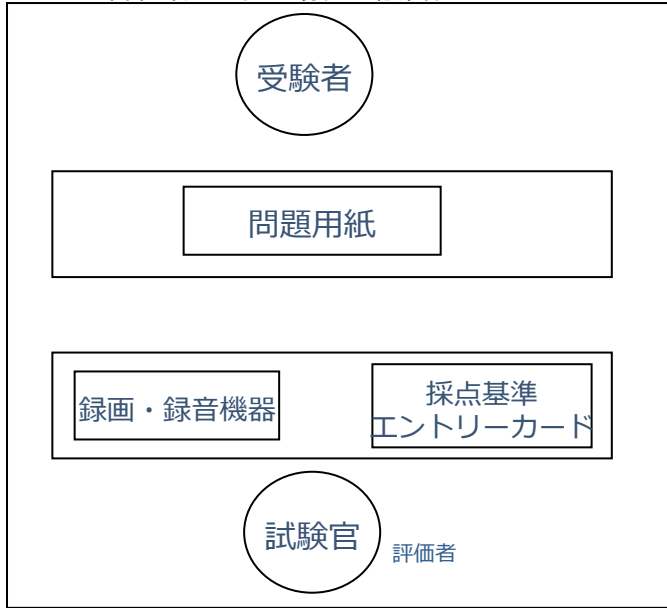
3. 採点結果記入

- エントリーカード（採点結果の記入欄）に採点結果を記入する
- エントリーカードに記入漏れがないかを確認する

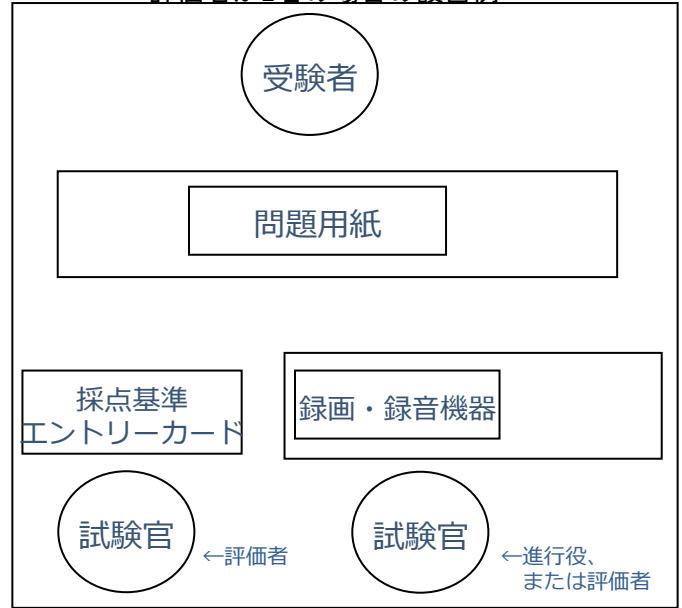
* 英語担当教員は、担当する生徒以外の生徒のスピーキング評価を行うこととしている（1クラスの場合は除く）。

【試験会場の設営】

評価者が1名の場合の設営例



評価者が2名の場合の設営例



【スピーキング採点基準】

	PartA : 音読	PartB:即興を前提とするやりとり		PartC:ある程度の準備をした上で話すこと	
	音読の評価	内容の評価	文法、表現の評価	内容、構成の評価	文法、表現の評価
3点		相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに回答できている。	適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない。	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている。	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない。
2点	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話せている。	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ回答できている。	ほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を関連づけて述べている。	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。
1点	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話せている。	相手の発話に対応した適切な内容で回答できているのは半分以下である。。	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を並べ立てている。	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。
0点	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う。	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど回答できない。	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど回答することができない。	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である。	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない。

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、合意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米國ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成

外部試験団体と連携した英語力調査事業

平成27年度予算額 116,325千円(116,325千円)

英語教育の在り方に関する有識者会議報告(H26.9.26)

生徒の英語力を把握し、きめの細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において掲げられている英語力の目標(学習指導要領に沿って設定される目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度以上)を達成した中高生の割合50%)から、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2から準1級、TOEFL iBT60点程度以上を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

【指導改善における活用のイメージ】

英語の資格・検定試験を活用し、生徒の英語力を把握・分析・検証し、教員の指導改善へ活用。(平成26年度に高校3年生を対象に実施したフィージビリティ調査を基に実施)。また、英語の資格・検定試験の活用促進に必要なデータの分析・研究も併せて行う。

生徒の英語力や学習状況について把握・分析を行い、それらの結果を指導改善に活用

第2期教育振興基本計画の成果指標である英語力を4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)にわたって測定

高等学校に加え、新たに中学校も対象に追加

<Plan> 学校における指導計画

<Do> 学習状況・指導内容

<Check>

英語の資格・検定試験実施団体、
研究機関と連携した英語力調査

質問紙
調査

効果的な指導の検証・課題の抽出

<Action> 指導改善の取組

(参考) 生徒の英語力に関する目標について

◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定) (抜粋)

成果目標5(社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力を備え、社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材、社会の各分野を牽引するリーダー、グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材、とりわけ国際交渉など国際舞台上で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上、海外留学者数の飛躍的な増加、世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

能力の例: 国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としてのアイデンティティ、創造性など

【成果指標】

<グローバル人材関係>

国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される**英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度～2級程度以上)**を達成した中高生の割合50%

英語教員に求められる英語力の目標(英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点程度以上)を達成した英語教員の割合(中学校:50%、高等学校:75%)

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

(H26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議) (抜粋)

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、**生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。**これまでに設定されている英語力の目標から、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

平成27年度 英語教育改善のための英語力調査スケジュール

【目的】

全国で無作為に抽出した国公立高等学校3年生約9万人(約550校)を対象に、新学習指導要領の着実な実施に向け、英語に関する4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)がバランスよく育成されているかという観点から、教員の指導改善に活用できるよう、生徒の英語力や学習状況を把握・分析する。
フィージビリティ調査として実施

【スケジュール】

4月下旬	教育委員会等への事業説明会(教育委員会から実施校へ依頼・説明)
5月初旬～	第1回検討会 <ul style="list-style-type: none"> ・分析方針 ・試験問題、質問紙(案)等
6月29日 ～7月31日	各学校において調査実施
9～12月	生徒個票返却 第2回検討会
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の英語力の分布 ・質問紙の結果とスコアのクロス集計 ・結果を活用した指導改善に向けた取組の在り方 等
3月	第3回検討会 調査結果報告書とりまとめ・公表

「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」について

平成27年5月1日
初等中等教育局長決定

設置の趣旨

平成27年度「英語教育改善のための英語力調査事業」を活用して、生徒の英語力の現状等を検証するとともに、調査結果に関する分析及びその活用の推進のための方策等について検討を行う「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」を設置する。

取扱事項

- (1) 生徒の英語力の現状把握及び調査結果の分析
- (2) 調査結果を活用した改善に向けた取組の推進方策の検討
- (3) その他

委員名簿 (五十音順) 主査

安間 一雄	獨協大学国際教養学部言語文化学科 教授
岡部 憲治	工学院大学附属中学校・高等学校 教諭
竹内 理	関西大学外国語学部外国語学科 教授
根岸 雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
松本 茂	立教大学グローバル教育センター長
森 博英	東京女子大学現代教養学部人間科学科 教授
渡部 良典	上智大学言語科学研究科 教授

文部科学省においては、次の関係官が担当。

向後 秀明 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
 (兼) 国際教育課外国語教育推進室教科調査官